

# 四日市港の整備も進む

◆域内総生産の5割超  
三重県における北勢地域の存在感圧倒的だ。地域別のモノやサービスの付加価値の合計を示す域内総生産(2015年度を旨)は、三重県北勢地域(四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなほ市、木曽町、東員町、菟野町、朝日町、川越町)で4兆326億円。三重県全体の54.7%を占め、中勢地域(23.6%)や伊勢志摩地域(10.0%)、伊賀地域(9.1%)を大きく上回っている。集積している産業も自動車や半導体、液晶、石油化学製品など多岐にわたる。

近年は企業の設備投資も旺盛だ。東芝エネリ四日市工場では昨年、研究開発棟「エネリ開発センター」や第6号製造棟が稼働した。今後は第7号製造棟の建設計画が注目を集めている。

地元企業では、工作機械の周辺装置などを製造販売するエスエス工業(本社三重県東員町、中村社長)が、本社工場を16年ぶりとなる新棟建設に踏み切った。ベトナムでも第2工場を本格稼働。工作機械「家族」して加工品を自動搬送する「パレットストッカ」などの生



四日市港では新たな雇用の整備も計画されている

◆新名神、東海環状  
北勢地域では近年、インフラ整備も進められている。今年3月、新名神高速道路の新四日市ジャンクション(JC)～亀山JCTまで、東海環状自

# 多彩な産業が集積

◆自動車道の買収IC(インターチェンジ)～大安全ICの区間が供用を開始した。

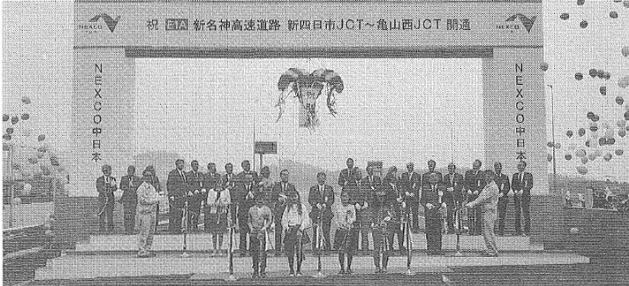
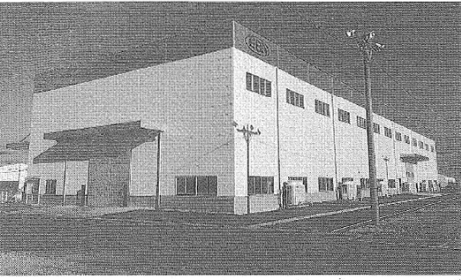
新神は三重県内の全区間が開通した。鈴鹿市本町には「鈴鹿パークエングリーン」P.A.もオープン。地元の特産品を使ったメニューを提供する飲食テナントなどが開業し、地域のきわい創出の拠点を大きく期待を集めている。

東海環状は24年度に大安全IC～北勢ICも開通する見込み。中部と関西北陸を結ぶ幹線として、三重県の存在感が一段と高まりそうだ。

◆四日市港に新雇壁  
海上輸送の窓口として機能して

今年3月には新名神高速道路なども開通

エスエス工業が本社工場に建設した新棟



整備する計画。おおよそ10年後の供用開始を想定している。今後、コンテナ機能の北増頭への集約など、臨海圏にも着手する方針だ。四日市港の18年の外資コンテナ個数は前年比4.4増の20万5547TEU(1TEUは20フィートコンテナ1個)となり、初めて20万TEUの大台を突破した。新雇壁の整備でコンテナを取り扱い能力を高め、さらなる臨海圏の活性化を期す。

工業港として三重県を支えてきた四日市港だが、近年は三重の観光の玄関口としての役割も期待されている。

昨年1月、初の外国客船「ヌタ・ネオロマンチカ」(イタリア、船種が新港)が来港した。来年10月には、パナマ船籍の世界最大規模の大型客船「ZVCヘリシティア」も来港する予定。三重の魅力を国内外に発信する絶好の機会がある。

また、8月2日に世界最大級の帆船「船出」が入港した。同日、4の回日開港された「四日市港まつり」が、開港100周年を迎えた1000年以来、20年ぶりの海王丸の一般公開も行われ、多くの見物客でにぎわった。